

# わかくさ

学 校 通 信  
青梅市立若草小学校  
令和5年12月22日  
第822号

## 2学期を終えて

副校長 宮部 吉一

コロナ禍から平常運転に戻った今年度、1学期に引き続き2学期も充実した教育活動を実施することができました。ご理解、ご協力いただきました保護者、地域の皆様には、厚くお礼申し上げます。

さて、日本には年間を通して、様々な行事があります。例えば「お正月」に始まり「ひな祭り」「七夕」「お盆」「十五夜」「七五三」「大晦日」など、思い付くだけでもたくさん出てきます。行事を通して季節を感じ、日々の生活を楽しく豊かにしてきた日本の伝統文化を大切にしていきたいと感じます。

明日から始まる冬休み、年末年始も例にもれず、日本に古くから伝わるいろいろな行事が行われます。しかし子供の頃から聞き慣れ、これまで当たり前のように行ってきた大人でも、年中行事について、いざ本来の意味や由来を考えると意外と知らないものです。

2学期の締め、一年の締めの日である「大晦日」について紹介したいと思います。

### <大晦日>

12月31日は大晦日。月末最後の日を晦日（つごもり）ともいうので「大つごもり」ともいいます。元旦には「年神様」（としがみさま）という新年の神様が、一年の幸福をもたらすために各家庭にやってくるので、年末最後の大晦日は、年神様を寝ないで待つ日とされていました。また、一日の境を日没の時としていた頃は、大晦日の日暮れとともに新年になりました。大晦日の夜、神社では境内で**大祓**を行って罪やケガレを清め、寺院では**除夜の鐘**を鳴らします。

### <年越しの祓（大祓）：神社>

神社では、6月末日と12月末日に大祓の行事が行われます。6月の大祓を「夏越しの祓」（なごしのはらえ）、12月の大祓を「年越しの祓」といいます。それぞれ、半年分のケガレを落とす行事で、白紙で作った人形（ひとがた）で身体のケガレを祓い、川や海へ流したり、かがり火を焚いたりして、健康と厄除けを祈願します。

### <除夜の鐘：寺院>

大晦日は、年神様を寝ずに待つ日とされていました。その前にお祓いをするために、寺院では深夜零時をまたいで108回鐘をつきます。怒りや嫉妬など人間にある108の煩惱を鐘の音で絶つためと言われていました。中国で宋の時代から始まったもので、十二か月と二十四節気と七十二候を合わせた数で108という説もあります。

一般的には、107回は旧年の内につき、残りの1回は新年につきます。

調べてみると、新年に向けての人々の様々な思いが込められていることが分かります。

今年の「大晦日」には、是非家族の話題にさせていただき、旧年への感謝と新年への希望を語り合う機会にさせていただけると幸いです。

ところで、年末年始の慌しさの中で、子供たちが事件や事故に巻き込まれることが心配されます。学校でも指導いたしました。本日配布しました「冬休みの生活指導」などをと、安全な生活を送ることができますよう、ご家庭でもよくお子様と話し合ってみてください。

それでは皆様、よいお年をお迎えください。1月9日の始業式には、子供たちが元気な姿を見せてくれることを楽しみにしています。

参考資料：「日々是生き生き 暮らしの歳時記」HP